

■温室効果ガス削減の目標

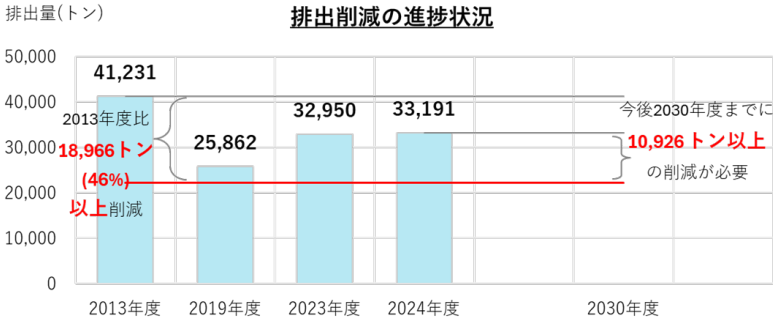
	削減目標（政府目標値）
2030年度	2013年度比 46%（18,966トン）以上
2050年度	カーボンニュートラル

■温室効果ガス排出量の推移

福岡空港の2024年度の温室効果ガス排出量は、2023年度比242トン増加の33,191トンである。
2030年度の削減目標（2013年度比46%以上の削減）の達成には、今後10,926トンの削減が必要である。

	温室効果ガス排出量(トン)			
	2013年度	2019年度	2023年度	2024年度
空港施設	37,468	21,420	29,249	28,301
空港車両	3,764	4,442	3,700	4,891
計	41,231	25,862	32,950	33,191

※小数点以下の端数処理により合計値が整合しないことがある



主に契約されている電力会社の排出係数… 2019年度：0.347、2023年度：0.475、2024年度：0.417
空港全体の商用電力使用量(kWh) …2019年度：5,295.7万、2023年度：5,629.2万、2024年度：6,009.9万

■2020年度～2024年度の温室効果ガス排出量の増減背景

福岡空港では、2020～2024年度にかけて、立体駐車場（2022年度、2024年度）や庁舎・管制塔の新築（2024年度）、ターミナルビルの増改築（2024年度）などの施設整備が行われ、空港の利用（航空機運航回数や旅客数）はコロナ前水準を上回った。主に契約されている電力会社の排出係数は低下傾向（2023年度比）にあるが、商用電力使用量の増加を主な背景として、温室効果ガス排出量が増加傾向にある。

■2020年度～2024年度の脱炭素化施策の取組状況

空港施設に係る取組	➢ 建築施設照明のLED化や省エネルギー運用等、建築施設の熱負荷低減、空調の高効率熱源の導入、空調・換気の省エネルギー運用等、給湯の節湯器具の導入の取組が行われた。 ➢ 航空灯火のLED化の取組が行われた。
空港車両に係る取組	➢ 電動車の導入が行われた。
再エネ導入促進に係る取組	➢ 非化石証書の調達による使用電力の再エネ化が行われた。 ➢ 庁舎屋上に太陽光発電設備の導入が行われた。
その他の取組	➢ 次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」を使用したバスの実証運行が行われた。